

今年度より新しく附属校に着任された先生方が、APUを訪問されました。「APUでは、どんな学びを得ることができるの?」「どんな学生生活が送れるの?」知っているようでまだ知らないAPUの魅力について、先生方に語ってもらいましょう。

立命館小学校 川端 清継 先生より

● APU (立命館アジア太平洋大学) について

みなさん、大分県別府市にある立命館アジア太平洋大学を知っていますか? APU (Asia Pacific University) とも言い、世界の知性と情熱に出会える大学です。みなさんの先輩である附属高校の生徒たちも APU に進学しています。海外からの留学生 (国際生) とともに講義を受けたり、生活したりして、英語や中国語、その他様々な「言語を」学び、その「言語で」自分たちの将来のために勉強をしています。大学の内外に関わらず、様々な国際社会の場面で活躍されています。

● 活躍している学生たち

みなさんの先輩学生たちは、自分から積極的に話しかけたり、笑顔で接したりすることで、国際交流の輪をよりたくさん広げています。学習熱心な学生は、APU だからこそ出会うことができたテーマを卒業論文に掲げ、朝鮮半島移民問題や人権問題が継続している現場に赴いて活動に取り組んでいます。インドやタイ、ベトナムを旅行して、その国の文化における表と裏を見てきた学生は、アジアで暮らす貧困な子どもたちの現状や、そこにおける日本人の負のイメージを壊していきたい思いから、スラム街の子どもたちのために絵本をかいたり手作りペットボトルロケット教室を開いたりするサークルを立ち上げてドキュメンタリーを制作し、その思いを広げています。

ハピタットの「家」づくりを軸とした学生団体活動は、屋根がない、壁がないなどの設備が不十分な「家」をもつ世界中の人々に、「家」を持つ幸せを伝え、全ての人が前向きに生活できるサポートをしています。誰もがきちんとした場所で暮らせる世界を目指して活動されています。

● APUの教育環境

講義では、学生同士で学ぶ場面も多く、スピーキングやグループで活動をする講義など、日本人と国際生が楽しく交じり合って学習しています。習熟度別における言語教育も充実しています。

「SALC (Self-Access-Learning-Center)」と呼ばれる言語自主学习センターでは、自分のレベルに応じた多読本のあるsea、TOEFL 対策ができる部屋、6ヶ国語を勉強できる AP 言語施設、英語相談 TA を予約し 1 対 1 でネイティブと英語を学んだり、言語パートナーを募集したりするなど、多様な学習設備を通して言語を学ぶ基礎準備ができます。そのため、3 回生からは、講義を英語で理解して学んでいくことができます。

APU に隣接する国際教育学生寮「AP ハウス」では、国際生と交流できるシェアルームや、国際生が多いシングルルームといった部屋が準備され、課外時間でも国際生と関わるができるシステムがあります。学生たちは一緒にご飯を作って食べたり、寝室で話したりして、普段の交流をしながら自然と言語を習得していきます。

● みなさんへのメッセージ

みなさんの友達に、外国の方はいますか? これまで親しくしている友達はもちろんこれからも大切にしていきたいことでしょう。しかし、世界はみなさんが思っている以上に広いです。日本人の枠から出てみて、世界中の人たちと触れあって、自分の知らない人や文化を体感してみたいかたがたでしょうか? きっと世界を舞台としたネットワークがみなさんを取り巻き、将来をサポートしてくれると思います。APU での言語学習や国際交流が、これからの未来を担うみなさんを豊かにしてくれると感じています。

APU Report

1. The APU Campus is an amazing place that provides students with a clean, modern environment and a progressive international faculty. Its scenic views and nature based location make it a treasure within the Ritsumeikan Trust.
2. APU provides an exciting atmosphere where students develop deep friendships across cultural borders and are given numerous opportunities to cultivate an international network through various work/study abroad programs.
3. The real energy on campus is the multicultural makeup of the student body. Their diverse styles and opinions blend together into a unique shared world view that produces an vibrant and electric atmosphere.
4. This echoes number three but the students at APU look to be part of a living community that doesn't disappear after the day's classes. I think a big part of this is APU House which facilitates a family/collaborative community atmosphere. Students experience life beyond the classroom and learn to grow personally as well as academically.

Study Report

The trip to Beppu was a real learning experience for me. I was able to develop new working relationships with the new sennin teachers. I also was able to visit APU and see how one culture (Japanese) and another culture (foreign) blend to make a new way or culture. This is the future and Ritsumeikan and APU are on the forefront of the seachange.

「APUの魅力を語る」

あなたは、世界の人々と価値観を共有することができますか。

あなたは、世界の人々と協力して現状打開の道を切り開くことができますか。

APUで獲得できる大きなものは、上の問いかけに対して「YES」と言えるための土台である。

急速なIT産業の発展によりグローバル化の波が押し寄せている。国際交流がさらに盛んになり、海外企業や教育機関との提携や産業の輸出入の活発化が進み、まるで表面上では国境が存在しないかのようなグローバル社会へと突入することが予想される。近未来において、あなたが今の環境のまま大人になったとき、育った環境や考え方の違う世界で育った人々と価値観を共有することができるのか。

確かに、上述の通りにグローバル化は一層加速するだろう。しかし、個人に内在する信条や世界観は、表面上の交流や情報伝達では簡単に交流することはできない。同じ問題を考えるにしても、その人がどのように捉えるのかは、各人の有する世界観により大きく異なる。そしてその世界観は、その時代の自然科学や思想により成立するものであり、時代背景や世代、育った環境や地域の人々の考え方や行動、感情までもを暗に支配している。

このような世界観、哲学者フーコーの言葉でいう「エピステーメ」や、個人の有する価値観は、批判や打破されるべきものではなく、共有・尊重されるべきものである。

APUで学ぶことで得られる大きな力は、互いのエピステーメ、信条を認め尊重し、個人の有する価値観を共有できる能力である。そしてその力を携え、英語をはじめとした多くの言語を利用して、世界各国の人々とコミュニケーションをはかることができる。さらにAPUを卒業した学生たちは、一人の地球人としてよりよい世界を構築するために、問題を打破する道を開く、その先駆者としての役割の一端を担える人材となることが期待できる。

資格や免許の取得に力を注ぐ若者が多いが、そのような外部評価は、確かに心強く感じる場合があるかもしれない。しかしその評価を持ってさえいれば、あなたは自信を持って世界の人々と協力して現状を開くことができるのか。

資格や免許といったような他人に規定された目に見えるスキルは、その資格の所有に安住してしまい、時として人から積極性を奪う。APUで得られるものは、そのような他人に評価されることによって得た資格ではない。ここで獲得できる力は、積極的に他者と関わり、意見をぶつけ共有することで、ともに高い次元での共通した問題解決をはかる力だ。主体的に学ぶ姿勢、アクティブを起こす姿勢により、世界へ飛び込む力のことだ。そのような力は目に見えるものではないが、あるコミュニティに属していた人が、地球人へと大きく花開くときに必ず必要な資質である。

APUでは、冒頭の問いかけに「YES」という人間を養成できる。あえて自分を追い込み、地球人としての存在価値を徹底的に考え、アクションを起こしてみてもどうか。APUにはすでにその環境が整っている。あとは、その環境を最大限活用できるかどうかは、各々の積極性に懸っているだけだ。

A P Uレポート

今回の新任研修では多くの学生との交流、また新任教諭とのグループワークを通して、国際社会におけるA P Uの役割を学ぶことができた。中でも学生へのインタビューでは、学生達の生の声を聞くことで、彼等の考えや、今の自分にできることは何かという目的意識を明確に持つことこの大切さ、そしてその目標に向けて進む、行動力を取材から感じ取ることができた。そして、その基礎基本となるものが、言語運用能力と、異文化コミュニケーション能力となるのだと思う。以下、学生との交流を通じた視点から三つの項目でまとめてみる。

1、学習環境

A P Uに通う学生達は市内のことを下界と呼んでいるそうだ。十文字原の標高の高さが理由であろうが、約半数が国際学生というA P Uの特異性もあいまって、異国感を味わうことができるキャンパスであった。学生寮としてA P ハウスを利用している学生からは国際学生と寝食を共にすることで、互いの文化や価値観は「違って当たり前」と思うようになったという。そして「日本人であるとはどういうことか」を自覚したという。こうした日常的な多文化交流もA P Uでこそその学習環境の一つであろう。

A P Uを志望した学生の多くは「国際交流・語学」を理由に挙げていた。こうした志望動機に答えるべく、A P Uのカリキュラムは受講する講義を日本語基準、英語基準のどちらかで選択できるシステムになっている。実際に学生達は自分の得意不得意分野を判断しながら講義を受けている様子であった。

2、学生との交流

A P Uの学生に共通して感じたことは、目的意識が明確であること。そして、実行力が伴っていることであった。学生へのインタビュー活動を行った際、モンゴル人の学生は日本の文化や歴史に興味があり、日本の文化を勉強していく中で、アジア諸国を尊敬できるようになったという。モーターサイクルに興味があり、トヨタに入社してモンゴルに支店をつくるのが夢だそうだ。また、ノルウェー人の学生は、日本国でのコミュニケーションの違いや難しさを受け入れながらも将来的には日本の一流企業で働きたいと夢を語っていた。他に、韓国人、日本人へのインタビューを行ったが、どの学生も、A P Uで学んだことをいかし、いずれは日本と母国との架け橋になればと思っており、愛国心を感じることができた。

3、国際社会におけるA P Uの役割

A P Uではサークル活動も盛んに行われており、ボランティアのサークル活動も多数存在する。そのうちの一つである国際ボランティアサークル「ハビタット」は、自立支援を大きな目的として運営されている。学生によるプレゼンでは、発展途上国に赴き、現地の人たちと協力して家をつくることで、コミュニティーの平和を築き、「生」への喜びを共有することができたと語った。

また、附属校出身者のプレゼンでは、韓国人との交流を通して「新しい学びの目標」を見つけることができたと言及し、チャレンジ精神に満ち溢れたプレゼン内容であった。他のプレゼンターも、人とのつながりの大切さを重視し、自らが体験した新しい価値観と視点で国際社会を生きようとしている。A P Uの基本理念である「自由・平和・人間性」「国際相互理解」「アジア太平洋の未来創造」が根幹に感じられる発表であった。こうした、アイデンティティの形成には、協調性と積極性、そして失敗から学ぶ姿勢が大切である。初等教育においても、是非子どもたちに身につけさせたい力である。

～「APUの魅力」を語る～

所属が立命館小学校のため、今回の語る対象を附属校の高校生とし、「二度とない大学生活をどう過ごすか」と問い、その返答を想定し、解説する形式でレポートする。

「二度とない大学生活、どう過ごしたいですか？」

1 語学に強くなりたい

巷には駅前留学だとか、お茶の間留学だとか、語学学校があふれています。実際、ダブルスクールと言って、大学に通いながら語学学校へ通ったり、通信教育に励んだりする学生も多くいます。もちろん、都会の大学に通い、駅前にある語学学校をはしごするのも1つの方法です。しかし、APUでは大学の正課として以下の語学を基礎から受講できます。英語、中国語、韓国語、ベトナム語、スペイン語、マレー語、インドネシア語、タイ語(2002年度)。もちろん、各地の言語はネイティブの先生が担当、しかも少人数。そしてそれらの言葉を母語とする学生も多く共に学ぶ環境です。語学を通して文化や習慣の違いを体感できる、そんな深まりや広がりにも満たした環境が、APUにはあります。

2 海外で生活したい

一口に海外といってもいろいろな文化圏があり、治安や費用等の面でも様々です。APUでは、日本国内の安心感と同時にAPハウスという外国人留学生が共に暮らす環境が整っています。異文化環境を安心、安全に実現できる場所、それがAPUです。

3 様々なサークル活動で自分を成長させたい

APUには、多文化環境を生かしたサークル活動が充実しています。例えば、「ハビタットAPU」は、途上国の住居問題を通じて自分たちの暮らす地域や幸せな生き方について仲間と共に見方を広げ、新たな視点を持つことができるようになります。海外での活動に参加することや、国内の啓発・広報活動など、NGOの活動に幅広く参加することで、国際感覚を磨くことにもつながります。

4 自分らしい就職につなげたい

APUは海外の元首、駐日大使、国内の一流企業の方々がアドバイザー・コミティとしてサポートしてくれている大学です。講演会や奨学金、就職支援など、様々な場面で将来のキャリア形成をサポートしてくれる具体的な取り組みが充実。資格試験対策もキャンパス内で行われるため、ロスなく就職準備ができる環境になっています。